

さて、駐車場から少し登って行く





途中、越後出雲崎出身で、境内にある五合庵に住んだこともあると云う良寛禅師像があった



さて、前方が本堂のようだ



国上寺

真言宗（豊山派）雲高山国上寺は、和銅二年（七〇九）弥彦大明神（天香山命）の御詫宣により泰澄大徳の開山になる北越鎮護、仏法最初の霊地といわれている。

現在の本堂（阿弥陀堂）は客僧万元が中心となり、およそ三〇年がかりで享保三年（一七一八）再建されたものである。

本尊は上品上生阿弥陀如来木造座像で、本堂内には泰澄、万元ほかの諸像もある。

寺務を掌る客殿は元文二年（一七三七）に建立され、本尊は千手千眼観世音菩薩木造立像である。

また梵鐘及び鐘楼は正徳五年（一七一五）に再鑄され、鑄工は大窪村（現柏崎市）の歌代甚兵衛藤原寛康という。

このほか、大師堂（御飯堂）・六角堂を含む諸建造物及び寺宝の多くが分水町の文化財に指定されている。

○国上寺寺宝のうち文化財に指定のもの
紺紙金泥写経。湖月抄。宝篋印陀羅尼塔。鰐口。梵鐘。珠州系陶質土器。

○国上寺管理のうち町の指定文化財に指定のもの
五合庵。夕ぐれの岡。本堂附境内地。

○国上寺に関する名勝、伝説等
弘法大師五鈷掛けの松。

仏蓮尊者と乙若の墓。

酒吞童子と鏡井戸。

天神郭香児山。

泰澄と雷井戸及び雷童縛り岩。

○曾我禅司房と遺品。
良寛と月見坂。
木造お杉、お玉像。
なお同寺うら山一帯およそ二ヘクタールに群生するブナ林は低山地として希少価値あるものとして県より天然記念物に指定されている。

本堂/享保3年（1718年）の再建



両サイドの壁には怪しい絵が！？・・・

http://www.kenoh.com/2019/06/25_emaki.html



右手の絵



向拝下を左横から見たところ



これは背面で、左手から右方向を見たところ



隅柱を見たところ



その上部の斗拱を見上げたところ



左側面を前面から背面方向に見たところ



隅の軒裏



右側面を見たところ



こちらは六角堂



説明板/文化13年（1816年）建立/本尊の大黒天木像は源義経の寄進によるものと云う

六角堂

文治三年（一一八七）兄源頼朝に追われる身となった弟義経は、武蔵坊弁慶をはじめ数人の家来と共に奥州、藤原秀衡を頼って落ちのびる途中寺泊を経て当寺に参詣、今後の無事を祈願して持仏の大黒天木像を寄進したといわれる。

その後は、当寺に秘蔵されて来たが文化十三年（一一八六）に至り霊夢により招福利益のために、六角堂を建立し、大黒天像が本尊として安置された。

大黒天像銘

奉刻 開運富貴像

治承庚子年正月朔月 源義経華押

（治承四年 一一八〇）



正面の厨子の中が大黒天木像か・・・



右手から見たところ



こちらが国上山への登山口ようだ



こちらは大師堂



説明板/宝永8年（1711年）に建てられた仮本堂のようだ



大師堂（御仮堂）

この堂には弘法大師像が安置されており大師堂又は御影堂みえいという。

この堂は本堂（阿弥陀堂）再建（享保三年一七二八）までの間、本尊・脇侍等を一時遷座するために建てられたものである。

棟札には、左の願文・趣旨が書かれてある。

大壇那征夷幕下源家宣公及至国郡都合力

結縁中堂一字

宝永八年辛卯仲夏大吉辰 敬白

大願主国上寺前住法印隆恭現住法印祐算

安養院

普賢院 萬 元

宝珠院 尚 春

本覚院 忍 戒

注1. 宝永八年（一七二一）国上寺住職祐算は五世であり

正徳元年（一七一）翌年六世泰全となる。

注2. その年落成間近にして本堂焼失、萬元は再び住職と協力、再建したものが現本堂である。

詰組がピッシリ！



アップで見たところ/江戸時代の宮大工の真骨頂



左側面を見たところ



さて、正面は東山門/標柱には「越後一之寺」と記されている



前方が方丈講堂（客殿）/元文2年（1737年）建立



令和2年厄年早見表 ◆御注意

厄年	男性	女性	男女共
前厄	5年 24歳	15年 18歳	30年 3歳
本厄	6年 20歳	14年 19歳	29年 4歳
後厄	7年 26歳	13年 20歳	28年 6歳
前厄	55年 41歳	52年 36年 60歳	
本厄	54年 42歳	63年 33歳	35年 61歳
後厄	53年 43歳	62年 34歳	34年 62歳
前厄	60年 36歳	13歳 0歳	
本厄	59年 37歳	20年 13歳	
後厄	58年 38歳		

◆御注意
 和暦の厄年と西暦の厄年が一致しない場合があります。
 和暦の厄年と西暦の厄年が一致しない場合があります。
 和暦の厄年と西暦の厄年が一致しない場合があります。

方位災難除 ◆御注意

七草倉庫		一百水屋	
厄年	34歳	厄年	71歳
35歳	72歳	72歳	78歳
36歳	63歳	29歳	66歳
41歳	54歳	38歳	67歳
50歳	45歳	47歳	48歳
59歳	36歳	56歳	33歳
68歳	27歳	65歳	35歳
77歳	18歳	74歳	21歳
86歳	9歳	83歳	12歳
95歳	0歳	92歳	3歳

三替水屋 御注意

厄年	9歳	66歳	66歳	67歳
18歳	67歳	67歳	17歳	78歳
27歳	68歳	28歳	69歳	
36歳	69歳	35歳	60歳	
45歳	70歳	44歳	51歳	
54歳	71歳	53歳	42歳	
63歳	72歳	62歳	33歳	
72歳	73歳	71歳	24歳	
81歳	74歳	80歳	15歳	
90歳	75歳	89歳	6歳	

唐破風の向拝



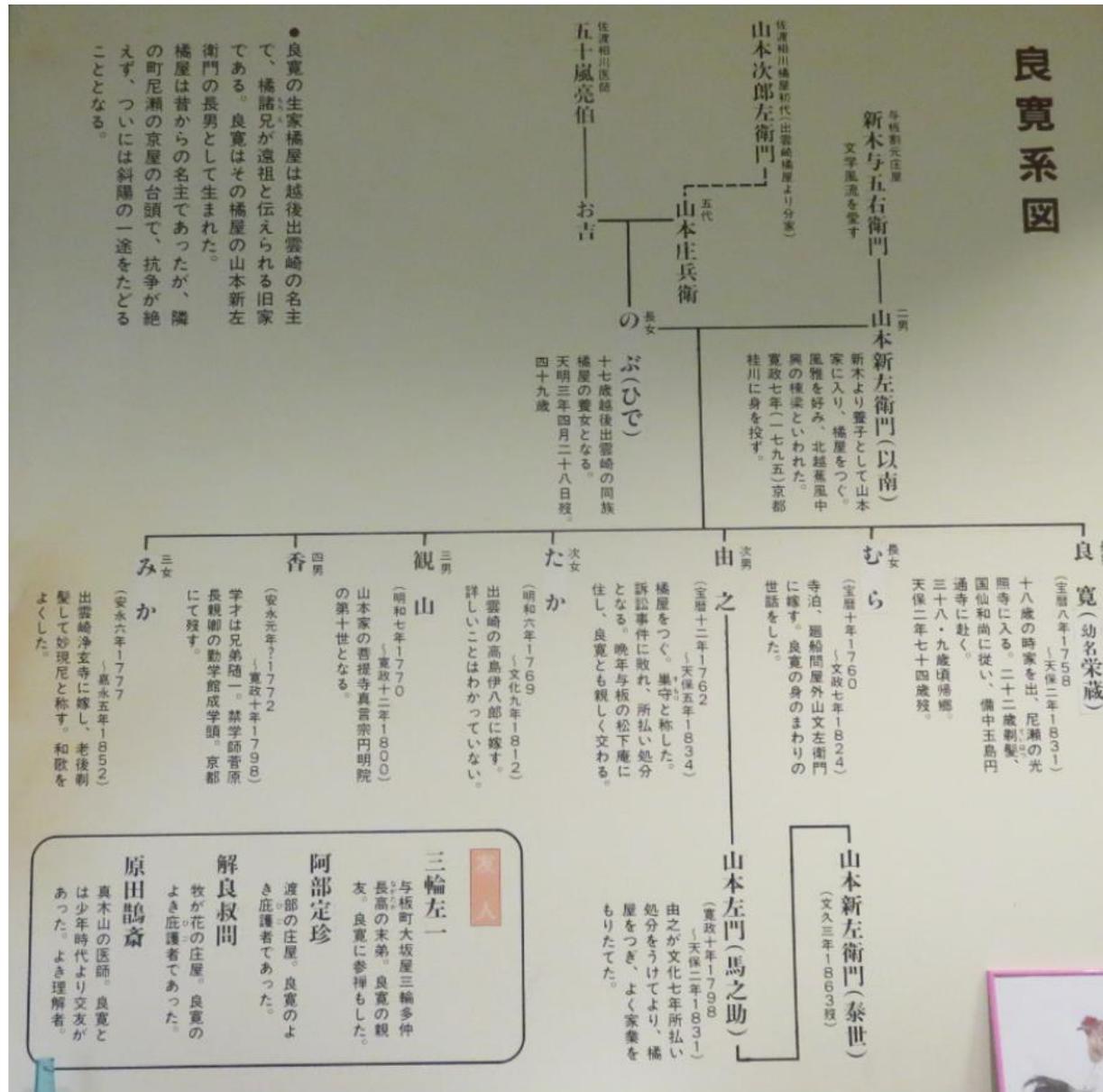
「上杉謙信公御祈願所 祈禱道場」と記された看板がある



ここは国上寺境内入口にある燕市分水ビジターサービスセンター/「良寛の里」とある



良寛などに関する様々な展示があった



国上山周辺案内図



彌彦神社

さて、ここは彌彦神社/一の鳥居





越後一宮
名神大社
彌彦神社

祭神 天香山命(亦の御名 高倉下命)
手葉彦命

御祭神は天照大御神の御曾孫
で天孫御降臨に供奉して降り紀
州熊野に住み神武天皇御東遷の
時靈剣を奉りて大功をたて、後
北辺鎮護国土開発の勅命を奉じ
て越路に降られ、住民を導き、
農耕漁業を始め諸産業を教え、
地方文化産業の基を開かれた大
祖神である。

されば夙く衆人その徳を仰い
でこの地に社を創建し崇敬の誠
を捧げた古社であり、遠く万葉
集には彌彦の神をたゝえ、平安
期の始め神験の顯著により名神
の列に加わり神階を授けられ、
延喜式に名神大社と記す、鎌倉
幕府三千貫の社領を寄せ、上杉
謙信神助を祈り、徳川氏また五
百石の朱印地を奉る。

明治四年国幣中社に列し、皇
室を始め衆庶の崇敬極めて篤く
明治十一年明治天皇が、昭和四
十七年には天皇・皇后両陛下又
昭和五十六年皇太子・同妃両殿
下が御参拝になる。
昭和二十二年宗教法人となり
神社本庁に属する。

定

- 一、車馬を乗入れる事。
 - 一、木竹を伐る事。
 - 一、魚鳥を捕る事。
- 右條々境内に於いて禁止する。

上杉謙信が神助を祈願しているようだ

越後一宮
名神大社

彌彦神社

祭神 天香山命あめのかみ（亦の御名 高倉下命たかくらしたのみこと）
手栗彦命てぐりひこのみこと

御祭神は天照大御神の御曾孫
で天孫御降臨に供奉して降り紀
州熊野に住み神武天皇御東遷の
時靈剣を奉りて大功をたて、後
北辺鎮護国土開發の勅命を奉じ
て越路に降られ、住民を導き、
農耕漁業を始め諸産業を教え、
地方文化産業の基を開かれた大
祖神である。

されば夙く衆人その徳を仰い
でこの地に社を創建し崇敬の誠
を捧げた古社であり、遠く万葉
集には彌彦の神をたゝえ、平安
期の始め神験の顯著により名神
の列に加わり神階を授けられ、
延喜式に名神大社と記す、鎌倉
幕府三千貫の社領を寄せ、上杉
謙信神助を祈り、徳川氏また五
百石の朱印地を奉る。

明治四年国幣中社に列し、皇
室を始め衆庶の崇敬極めて篤く
明治十一年明治天皇が、昭和四
十七年には天皇・皇后兩陛下又
昭和五十六年皇太子・同妃兩殿
下が御参拝になる。

昭和二十二年宗教法人となり
神社本庁に属する。

定

- 一、車馬を乗入れる事。
 - 一、木竹を伐る事。
 - 一、魚鳥を捕る事。
- 右條々境内に於いて禁止する。

石橋を渡って社殿へと向かう



左手に折れると、正面は二の鳥居/ここにもコロナがいるのか！



正面は随神門/昭和15年建立





これが彌彦神社社殿/大正5年の再建で、設計は伊藤忠太/背後は霊峰弥彦山



左手から見たところ右手前が拝殿、左奥は本殿/登録有形文化財





中部北陸自然歩道

越後一宮 彌彦神社

彌彦神社(御祭神)

彌彦神社の歴史は古く、万葉集に

いやひこ おのれ神さび 青雲の
棚引く日すら こさめそぼふる

と歌われていることから推定して、今から約1,300年以前からお祀りされたことが明らかになっています。

御祭神は、天照大御神の御曾孫にあたる、天香山命(あめのかごやまのみこと)です。

社記には、国土を平定された神武天皇の勅命により日本海の荒海を舟で渡られ、弥彦に宮居を定められてから神域を拡張、社殿を造営したと記されており、この時すでに神社が創建されていたことがわかります。

境内はおよそ13ヘクタール(約4万坪)で樹齢4~500年以上の老杉古櫨に囲まれ、御本殿の背後は標高634mの霊峰・弥彦山で、その境内林・社有林はおよそ200ヘクタール(約60万坪)の広さがあります。

御社殿

現在の御社殿は、明治45年に門前町からでた火災の延焼で炎上したため、大正5年に造営されました。拝殿の広さは50坪で、本殿以下25件は国の「登録有形文化財」になっています。

本殿・・・三間社流造向拝付き、回縁高欄、銅板葺
拝殿・・・入母屋造、向拝、裳階付き、銅板葺

摂社・末社

御祭神の御子孫神たちは、6代にわたり、越後地方の産業文化の基礎造りを継承されました。6代始祖神を越後開発の神と仰ぎ、摂社に祀られています。また末社十柱神社は、室町時代の建築手法を伝える江戸時代(1694年)の萱葺き建物で、国の「重要文化財」に指定されています。

御神木

石柵に囲われた「椎」の大木が御神木です。

御祭神の仰せにより、地中に挿された椎の杖から芽が出て成長したものと伝えられています。

環境庁・新潟県

雲洞庵

さて、ここは雲洞庵/現在の堂宇は1707年（宝永4年）に、新潟県出雲崎の黒基内を棟梁とする大工群によって再建されたと云う



清水街道は、南魚沼市と上田市の間にあり、上田地区の中心地である。この街道は、上田地区の発展に大きく貢献した。また、この街道は、上田地区の歴史を伝える重要な遺産である。この街道は、上田地区の歴史を伝える重要な遺産である。この街道は、上田地区の歴史を伝える重要な遺産である。

雲洞庵の土ふんだか
永享元年(西暦1429年)関東管領家より十万石の格式をいただき、赤門を建立、本堂までの石畳の下に法華経を一石一字ずつ記し敷きつめたことから一年に一度赤門が開かれた時お参りするとご利益があると云われ善男善女が有難さに随喜して言い合ったのだと云われている。

金城山雲洞庵歴史
開基 藤原房前公
養老元年(西暦717年)母の菩提を弔うため律宗に属する尼僧院を建立、雲洞寺と称した
中興 上杉憲実公
永享元年(西暦1429年)関東管領家の菩提寺として金城山雲洞護国禅庵とする。
曹洞宗の名僧保徳能勝律師(楠正勝公)を禅草開山として紀り、桐家の「菊水」の紋と関東管領上杉家の「竹と雀」の紋を寺紋として、戦国時代上杉謙信公、武田信玄公に帰依され、北越無双の大禅道場として栄えた。

上杉謙信の「雪中越山」も、この清水街道を通過して関東へ向かったようだ

清水街道(現在の国道二九一号線)は古くから越後国上田庄と隣国上野国沼田を結び、三国街道とともに交通の要路として知られた。中でも国境の山嶺を超える清水峠は険しい山道だが、里程が短く軍用道として重視され、多くの事歴が刻まれた歴史街道でもある。南北朝期は新田義貞に属した魚沼の武士たちが清水峠を越えて鎌倉を目指し、関東からは越後征圧を目指して北朝方の兵がなだれ込んできた。

上杉謙信時代はこの峠を「直路」と呼び、関東での戦いに幾度となく往還している。

「お館の乱」では景勝方の上田衆が守る峠の拠点清水城で、景虎支援の北条氏と激しい攻防戦が展開された。

清水峠は日本有数の豪雪地であり、厳しい気候により崩壊が著しくしばしば交通が途絶えた。幾度かの改修が施されたが、三国街道の発達により清水峠は次第に衰退し、その後は改良されないまま現在に至っている。

雲洞庵の土ふんだか

永享元年(西暦1429年)関東管領家より十万石の格式をいただき、赤門を建立、本堂までの石畳の下に法華経を一石一字ずつ記し敷きつめたことから一年に一度赤門が開かれた時お参りするとご利益があると云われ善男善女が有難さに随喜して言い合ったのだと云われている。

開基は藤原北家の藤原房前(藤原不比等の子)/ここも上杉謙信との縁がある

金城山雲洞庵歴史

開基 藤原房前公

養老元年(西暦717年)母の菩提を弔うため律宗に属する尼僧院を建立、雲洞寺と称した

中興 上杉憲実公

永享元年(西暦1429年)関東管領家の菩提寺として金城山雲洞護国禅庵とする。

曹洞宗の名僧傑堂能勝禅師(楠正勝公)を挿草開山として祀り、楠家の「菊水」の紋と関東管領上杉家の「竹と雀」の紋を寺紋として、戦国時代上杉謙信公、武田信玄公に帰依され、北越無双の大禅道場として栄えた。

これは黒門



こちらは赤門

[video](#)



この赤門から前方の本堂に続く参道の石畳の下には、一石一字ずつ法華経が認められて埋められているらしい



矢野道

この石置の下に法華
經を一字二石づつ刻み
約一メートルの深さに敷き
つめてあります。ふみしめ
ますと御利益甚大
です。踏みつけると利益
をよめる。佛教・禅宗
の教えは寛容なもの
です。それが日本人の心
となりました。

振り返って赤門を見たところ



さて、本堂へと進もう



鐘楼堂



鐘樓
金枝

お堂は元禄四年
に建立され当庵で一番
古い建物です。鐘は
大東亜戦争で供出され
不明。昭和二十三年、四十五世
石龍和尚の尽力によつて作
られ、昭和三十四年春、
高松の宮殿下よりお
鐘はじめとして

いいただきました。

A01691

本堂が見えて来た

 [video](#)



苔生した大佛が鎮座



さて、本堂内部に入ろう

[video](#)



ここは客殿

[video](#)



客殿から見た観音堂（左手前）と座禅堂（右奥）



参考ホームページ

<https://zo8.jp/e/166/>

<https://ameblo.jp/kuota07/entry-12440880962.html>

<https://www.izumozaki.net/tourism/ryokansokuseki/>

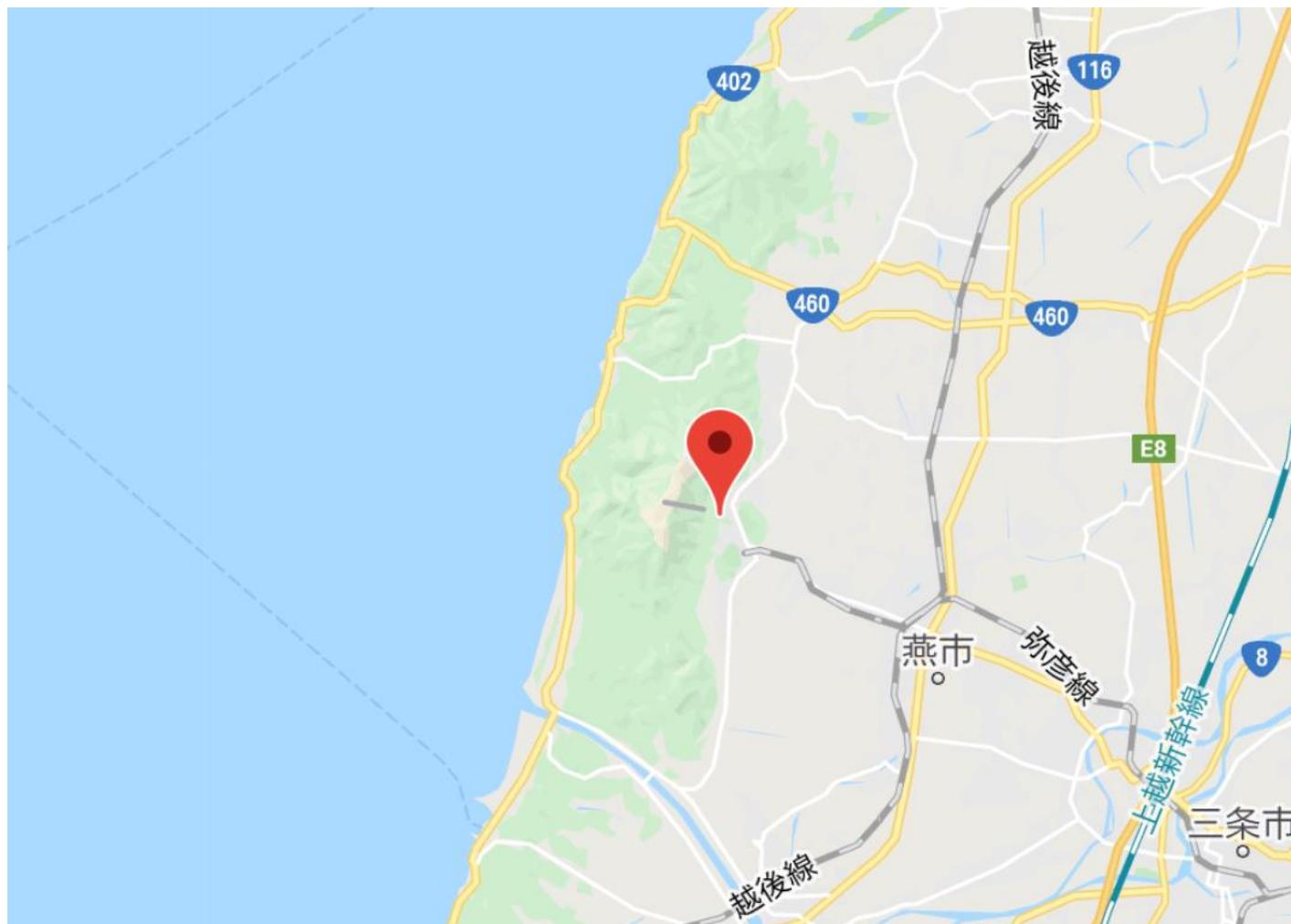
<http://www.yahiko-jinja.or.jp/meguru/index.html>

http://www.untouan.com/guide/index_08.html

国上寺



彌彦神社



雲洞庵

